いつまでもいると思うな、
親と配車職人
産廃業界に特化したAIで配車表を自動作成
ハイシャガシラ
←詳しくはQRコードまたは検索からHPへ
配車頭

発行所
60th plus 5
日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5
電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11
電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090

12月12日 №1613
2022年(令和4年)
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
平成元年9月22日 第3種郵便物承認
購読料(定価) 年間 22,900円+税
1部本体 495円+税

主催▶日報ビジネス株式会社 https://www.n-expo.jp
ecoたろうくん NEW環境展公式キャラクター

123人の女性会員が参加した

opinion オピニオン 環境直言 第18回

脱炭素やサーキュラーエコノミーの取り組みは世界的な潮流となり、環境対策は新たなステージに入った。私たちはどのように行動していくべきか。各界の識者がずばり直言する。

(一社)日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 委員長 木村 照夫

本当に良いものを追求する社会構築

「それってサステナブルですか」

国連が提唱する持続可能社会構築のためのSDGs17に対する関心度が向上するとともに、それに対する活動も活発になり、サステナブル(サステナビリティ)と言う言葉をきまざまなところで聞くようになっている。また、SDGsに関する展示会も頻繁に行われている。しかし、展示物をみながら「それってサステナブルですか」と聞いてみたくなることが多々ある。

サステナビリティとは1987年に「環境と開発に関する委員会(WCED)」が発表した、"Our Common Future"の中での定義を採用された言葉で、国家を主体として「将来のニーズを損なうことなく、現在のニーズを満たすこと」とされている。

材料や製品開発の観点からすると、CO_2排出量の抑制、ごみの減少、水使用量の削減と水質保全、人体への安全安心、省エネルギー(資源保護)、高機能化などがキーワードになると思われるが、どれにも当てはまらない例や、一つの項目に貢献していても他の項目でマイナス効果になっている場合も少なくない。今後はサステナブルの総合的・定量的評価が必要であろう。

プラスチックは悪なのか

プラスチックに焦点を当てると、最近は例えばストローや包装材料などプラスチック製品がやり玉にあげられている象徴はオットセイに巻き付いた魚網、亀の鼻に突き刺さったストロー、海岸に打ち上げられた大量のプラスチックボトル類などである。これを見て多くの方々がプラスチックを悪者扱いにしている。

しかし、これらの事態が起こるのはプラスチックを不法投棄するからであって、適正に処理していればこのようなことは起こらないのではなかろうか。要するにプラスチックが悪いのではなく、それを使っている人間のマナーに問題があると思っている。

一方で、最近は非石油系のプラスチック開発が盛んであり、生分解するプラスチックも注目されており、海中や土壌中で分解することを売りにしている製品も少なくない。しかし、これらはプラスチックの投棄を黙認しているようにも受けとれ、かえってごみを増やす結果になる危険性を含んでいる。環境調和型材料の開発が必要であることは言うまでもないが、それよりも人間のマナー向上を目指すべきであろう。

アップサイクルとグリーンウオッシュ

廃棄物を減らす手段としてリサイクルがあるが、一般的にはリサイクルはカスケード利用であり、価値が低下して経済的価値も低くなる一方で高騰する処理費とのバランスが悪く、リサイクルが進みにくい状況にある。しかし昨今の環境への関心の高まりにより、廃棄物からいかに付加価値のある製品(アップサイクル品)を生み出すかが大きな課題となっている。

店頭にもアップサイクルをうたう製品が数多く見られるようになってきた。ここでも問題は何を基準にアップサイクルとうたっているかである。ブームに乗ってなんでもかんでもアップサイクルと称している傾向が強く、グリーンウオッシュ(環境に配慮しているかのように見せかける)という言葉もよく聞かれるようになってきた。価値とは何なのか、本当に良いものとは、SDGsを単なるブームに終わらせることなく、これを機会に今一度よく考えてみた